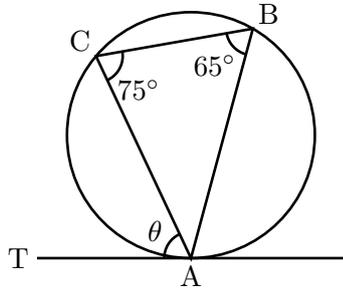
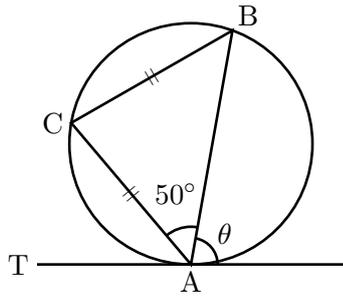


直線 T は円の接線で、点 A は接点である。点 B, C は円周上の点で、点 P は直線 T 上にある。同じしるしの付いた辺の長さは等しいとする。このとき、 θ の大きさを求めよ。

(1)



(2)



(3)

